



日曜日の午前、散歩を兼ねて、宿泊ホテルの近くを散策してみた。

やや行くと、どこからか、カラオケに載せた歌声が聞こえてくる。

その響きに向かって歩いていくと、この光景に出合った。

時刻はまだ10時、でも、もうテンションは盛り詰め、マイクの奪い合いである。

そこに通りかかったお婆ちゃんも、これを冷やかし、大爆笑の中に、また、盛り上がる。

カメラを構えた私にも、歌えと誘う。

いっぱい機嫌の夜ならともかく、この乗りにはさすがについていけない。

これが、アジアのどこの国とも違うフィリピンの持つ空気でもあろう。

そして、私がフィリピン人を好きになる理由の一つかもしれない。